

イントロダクション： あなたは「教会」と聞いて何を思い浮かべるだろう？ ある人にとっては宗教施設、またある人にとってはたくさんのルールがあり批判的な所、あるいは愛と希望のあふれる場所かもしれない。しかし教会と聞いて力、それも神の御力が働く場所、と考える人はあまりいないのではないだろうか。聖霊を悲しませないようにするのは大切だが、同様に聖霊の働きを抑えないことも大切である。聖霊を悲しませるとは、私たちが道徳的、人格的に失敗をする時、また聖霊を抑えつけるとは神の御力が私たちの中に働くのを阻止してしまう時に起こる。聖書は聖霊を抑えつけないようにと私たちに警告している。今日は聖霊の力について、また健康な教会とは、自由な聖霊の動きがある所だということについて見ていこう。

1. さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行ったら、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。(2:1-2)
 - a. 時と場所によっては人間的な知恵で事足りることもある。例えばどの靴下を履こうか、どのスプーンを使おうか、今日はシャワーをするべきか、などというようなことはイエス様に聞く必要はない。人間の知恵も神から与えられたものであり、それをわざと使わずにいたり排除する必要はない。
 - b. ただし、人間的な知恵は教会を違う方向に導いてしまうこともある。私の見解では、人間の知恵だけで教会の方向性や方針、活動内容などを決めてしまう時、聖霊が望むものと全く違った方向に進んでしまうことがある。
 - c. この世は教会を、人々がいろんな規則に従い、互いを批判し合うただの宗教施設だと見なしている。そして往々にして教会が批判を受ける時というのは人間の知恵で判断をした結果である。
 - d. 人間的な知恵が魅力的なのは、それはある時点では道理がかなっていてそれなりの結果が出ているように見えるからである。
 - e. 私たちは人間的な知恵を使うことに気を付けなければならない。あなたのアイデア、意見、批判はどこから来ているのだろうか？ 私たちが永遠の幸せについて考える時、その判断は貪欲から来ているのだろうか？ 聖霊の確信によってだろうか？
 - f. 私たちは神の民としてもっと深い泉から汲み取るべきである。
 - g. パウロは巧みな弁舌や人間的な知恵によって神についてのあかしをしたのではない、と言っている。パウロのミニストリーは旧約時代や聖書の他の箇所で見られるものと何ら変わりはない。神の人と言うのは体験的に神と出会った人のことをいうのである。人は実際に目撃し、体験したことでなければそれについて証言することはできない。パウロは神に出会ったのであかしができたのである。

2. あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました。そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵に支えられず、神の力にささえられるためでした。(2:3-5)
 - a. この世的な見地からはパウロはけっして優れた人物とはいえなかった。容姿、感情、演説能力、すべてに欠けていた。しかし彼のミニストリーには神の霊（聖霊）が共にあった。
 - b. ここでは必ずしも聖霊による力というのは詳しく記されていないので、人それぞれ想像するものは違うかもしれない。私も聖霊が何をもたらすのかということは確実にはわからない。
 - c. しかし一つ確かなことは、それは人を変えることができ、信仰を生み出すことができるということである。そして信仰が生まれるならば、聖霊によるミニストリーによって人々の耳、目、心を開くことができる。つまり信仰は聞くことから始まり、それはただ良い説教を聞くということではなく、直接神がお語りになるのを聞くことである。
 - d. 健康な教会とは常に神の声を聞き、従う教会である。あなたは神の声を聞いているだろうか？